

災害から生命と生活を守り未来へつなぐ「東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」

概要

- 岩手県東稲山^{※1}麓地域(奥州市生母地区、平泉町長島地区及び一関市舞川地区)は、たび重なる洪水害や干ばつ等の自然災害に見舞われてきた
- 地域一体となった立体的な土地利用や水源管理等の取組により、自然災害のリスク分散を図る独自の農林業システムが構築・継承
- 豊かな農業生態系と個性ある文化が育まれ、独特のランドスケープが形成

※1 東稲山：経塚山、音羽山、東稲山の三つの山の総称

特別な価値と重要性

- 気象変動や社会経済の変化に適応しながら、世代を越えて食料と生計を保障。レジリエンスに優れたシステムであり、世界各地で自然災害が頻発する状況下、その現代的な意義は大きい
- SDGsへの貢献が期待され、Eco-DRR^{※2}等の先進事例であり、中山間地域における持続可能な農林業システムと評価

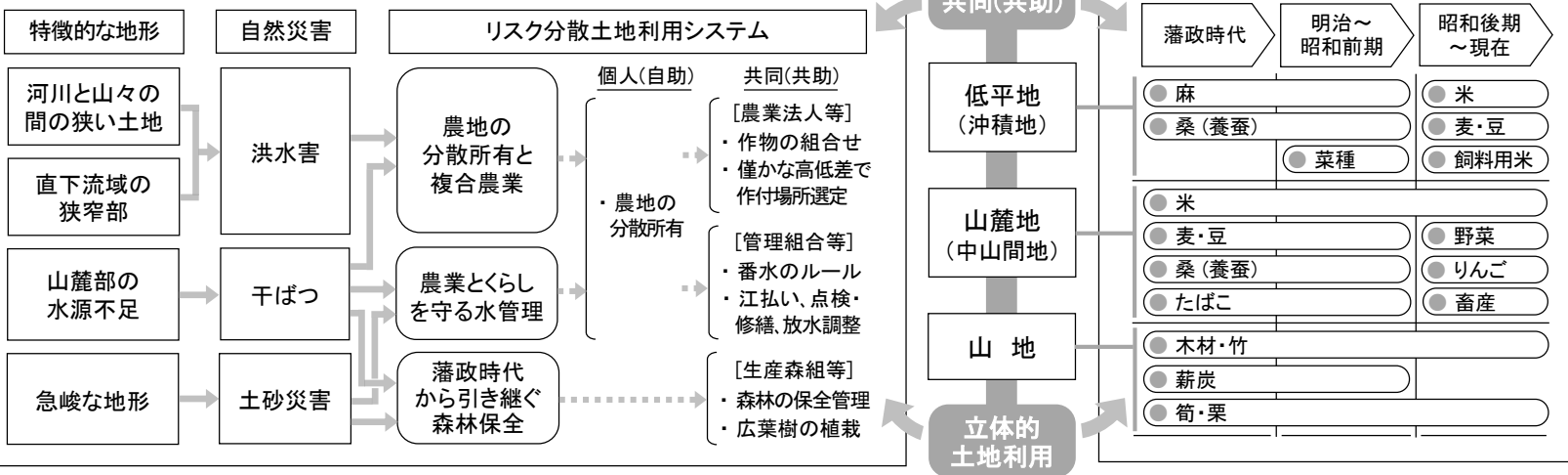
※2 Eco-DRR：生態系を活用した防災・減災(Ecosystem-based disaster risk reduction)

地域の特徴

- 農業生物多様性
 - 立体的な土地利用が育む多様な生態系
 - ・ ハクチョウ、マガン、キキョウ、カワラナデシコ、水生昆虫 など
- 文化・価値観・社会組織
 - 現在も守り継ぐ石の信仰と農村文化、奥州藤原氏との関わり
 - ・ 巨岩信仰(雨乞い、無病息災)
 - ・ 岩石利用(棚田の石垣)
 - ・ 経塚山と月山神社 など
- ランドスケープ
 - 地域の象徴として親しまれる東稲山と北上川
 - ・ 西行(山家集)
「ききもせず 東稲山のさくら花 吉野の外にかかるべしとは」
- 多様な主体の参画
 - 地元・都市の住民や企業等による地域活性化と森林保全活動
 - ・ ライス・アート in ひらいずみ
 - ・ イロハモミジの森 など
- 6次産業化の推進
 - 地域資源を活用した農業法人や女性団体等による事業化の取組
 - ・ キッチンあごづ(コロッケ)
 - ・ アグリ平泉(パン、ワイン)
 - ・ 産直あいあい など

伝統的な知識システム

- 当地域の農家は、藩政時代から、山麓地と低平地の双方に土地を分散所有し、複合農業を営むとともに、共同(共助)の精神を礎とし、水利施設の管理や森林の保全に取り組む
- 自然災害の影響を最小限に抑え、できるだけ多くの食料・収益を確保する仕組み



【東稲山】

山地

標高150m以上
針葉樹と広葉樹が混在

急勾配の箇所
が多数存在

土砂災害特別警戒
区域や地すべり危
険箇所が指定

集水域が極端に狭
く、水源に乏しい

干ばつや水不足が
たびたび発生

【平泉町長島地区】

山麓地(中山間地)

標高30～150m
集落、棚田、畑、ため池

低平地(沖積地)

標高20～30m
氾濫原、肥沃な土壌

北上川と山々の間に挟ま
れたエリア(幅約4～6km)

直下流域に約30km
にわたって狭窄部が
続く

概ね2年に1回の
頻度で冠水被害
が発生

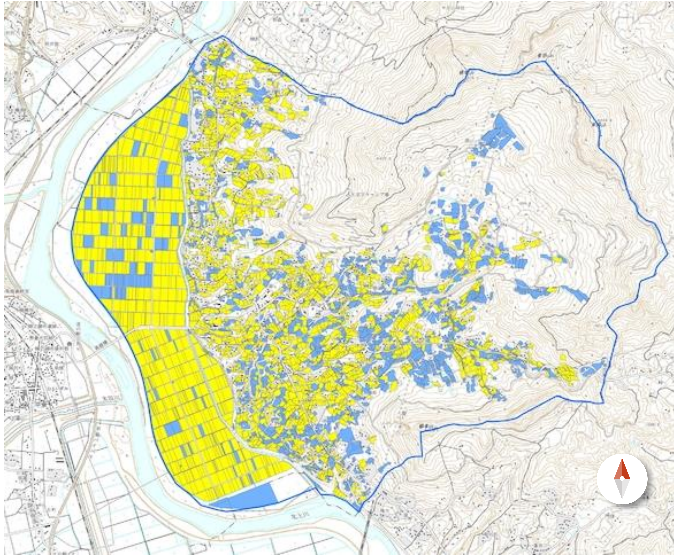
【北上川】



いのち 暮らし
災害から生命と生活を守り未来へつなぐ「東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」

① 農地の分散所有

- 低平地に農地を所有している農家の約9割が山麓地にも所有



平泉町長島地区における農地の所有状況

※ 黄色の箇所が、低平地と山麓地の双方に分散所有している農家の農地

② 生産性の高い水田農業

- 低平地では、現在、大区画ほ場が整備され、米を中心に麦・豆等が栽培



長島地区の稲刈り作業

④ 森林保全活動

- 治山治水の一環として、生産森林組合等による広葉樹の植栽などを実施



「イロハモミジの森づくり」の取組

⑥ 石の信仰

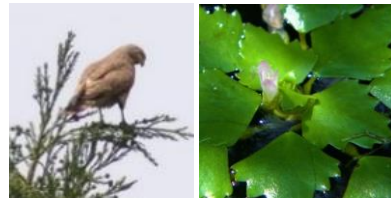
- 山麓地の岩石は、湯水時の雨乞いや無病息災等の信仰対象



雨請石

③ 農業生物多様性

- 低平地から山地までの一体的な管理により、特有の動植物が生息(希少種を含む660種以上)



サシバ

ヒメビシ

環境省レッドリスト(絶滅危惧Ⅱ種)

⑤ 水資源の有効活用

- 約900か所のため池が現在も利用されている



金山棚田

⑦ 西行と東稲山

- 「西行の桜の森」として、往時の桜森の復活に向けて取り組まれている



西行が詠んだ東稲山の桜(復元CG)



【平泉町長島地区】

山地

標高150m以上
 針葉樹と広葉樹が混在

【東稲山】

低平地(沖積地)

標高20~30m
 氾濫原、肥沃な土壌

山麓地(中山間地)

標高30~150m
 集落、棚田、畑、ため池

⑦

[北上川]

②

①

⑤

③

⑥

④

